

学校法人 名古屋国際学園 Nagoya International School

ホテルの住む小川を守ろう

カワモズク、スナヤツメ、ナガエミクリ、ミノソバ、カタクリ、カヤネズミ、ヘイケボタル・・・これらは水のきれいな自然のままの河川に生息する希少な生物です。実は名古屋にもまだこのような生態系が残る場所があるのです。しかしながら、都市化が進み、便利になる一方で、今まで自然が手つかずのまま残されていた場所が存続の危機にさらされています。地域の皆さんのご協力で、名古屋国際学園の高等部の生徒達は、人間と自然との共存を探りながらの環境保全の取り組みに参加させて頂いています。

● 才井戸流（さいどながれ）

名古屋の都心から15キロほど離れた守山区、名古屋国際学園のある辺りは、人口200万人の大都市にありながらも、緑豊かな自然環境に恵まれています。それでも近年は、名古屋のベッドタウンとして人口は増加し続け、区画整理に伴い開発が進んできました。日本で唯一、高架上の軌道と地上の両方を走行するガイドウェイバスの路線が設けられ、道路が拡張されて信号機も増え、住宅や店舗、医療機関、更には大型ショッピングセンターも進出し、今後もこの地域の都市計画が、次々と実行されていくことでしょう。人間にとっては便利で住みやすい町になってきましたが、その陰で、犠牲になるのは自然の生き物たちです。36年前から、この地域の河

川にきれいで快適な生活環境を取り戻し、次代へ引き継ぐことを目標に活動を続けて来た、「矢田・庄内川をきれいにする会」の皆さんは、20年前から学校の近くを流れる希少生物の住む小川、才井戸流（さいどながれ）の保護活動に取り組んでいます。

3年ほど前から、才井戸流のある地区も、区画整理事業による工事が始まりました。周辺の道路の拡張工事が進行し、田んぼが姿を変えた空き地の草が刈り取られて整地され、近くには新たな大型ショッピングセンターの建設予定地もあります。そんな中、「きれいにする会」の皆さんのご尽力で、その一帯は、出来るだけ才井戸流を自然のままに残した自然観察公園として保存されることになったのだそうです。湧き出る水を活かし、訪れる人にもっと自然を楽しんでもらうため、公園内に原風景である田んぼをイメージした自然観察池を作る計画も進んでいました。

● 環境科学、地域奉仕、そしてIBプログラム

学校のすぐ近くにありながら、生徒達は、湧き水が流れ込み、ホテルが生息するその小川の存在を全く知りませんでした。生徒達の取り組みは、「きれいにする会」の皆さんのプレゼンテーションにより、環境保全における才井戸流の重要性和、保護の必要性を認識することから始まりました。その後、

